

1. 評価項目

作成日 平成21年12月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2775802198		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家平野		
所在地	大阪市平野区加美西2-6-13 (電話) 06-4303-8421		
評価機関名	株式会社ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区則武1-13-9チサンマンション第三名古屋1109号		
訪問調査日	平成21年11月21日	評価確定日	平成21年12月25日

【情報提供票より】 (平成21年10月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 6人, 非常勤 12人, 常勤換算	15.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	73,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(410,000円)	有りの場合償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要(10月11日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	3	要介護2	6		
要介護3	5	要介護4	2		
要介護5	2	要支援2			
年齢	平均 83歳	最低 69歳	最高 96歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田クリニック・榊原歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

株式会社ケア21が運営母体である。当ホームでは、グループでのスケールメリットを活かした運営がなされており、選出された職員が、本部で毎月開催されている健康管理委員会やマナー委員会に出席し、情報収集や共有を行いつつ、ホーム運営に結び付けている。健康維持や気晴らし支援の一環として、日々、近隣の散歩や買い物支援等の外出支援を行いつつ、近隣との繋がりを大切にしていきたい考えを持っている。他法人が参加する連絡会に加入することで交流をもちながら、意見交換を行い、ホーム運営に役立てている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 日常的な外出支援、家族等への報告、職員を育てる取り組み等があげられる。前回評価以降の取り組みとして、日常的に外出支援や地域との係わりにおいて、意識を持ち、取り組んでいる姿勢がうかがえる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の受審、自己評価の実施にあたり、管理者より一定の説明が職員に対してなされ、共通の認識はもっている。自己評価の実施は、管理者と計画作成担当者が中心となり行われている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 入居者、家族、町内会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、法人職員の参加の下、2か月に1回の割合で開催している。入居者の近況報告、法人及びホームの取り組みの紹介、その時期に応じた催しの相談等、話し合いがなされている。会議を継続することで、関係者との関係構築にも努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 入居者家族会の開催までには至らないが、運営推進会議時に家族への参加を呼びかけ、意見収集を行っている。また、意見箱設置やアンケート調査実施により、意見表出の機会を設けている。家族来所時に近況を口頭にて報告すると共に、毎月、管理者より体調面や介助の状況、イベントの開催案内、特記事項等が書面にて報告されている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域自治会への加入、ボランティアの受け入れ、地域行事への参加等を通じて、地域との交流を図っている。週に1度、職員の付添いでふれあいサロンを訪れ、地域の方々とのつきあいを持たれる入居者もいる。

評 価 項 目

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ご入居者の尊厳を尊重し、自分らしさがある生活の継続を、ホームはもとよりご家族・地域と共に支援します」を基本とし、ホームとしての運営方針を示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示すると共に、朝のミーティング時に、職員で唱和することで、共有と意識付けがなされている。また、全職員に理念や法律の遵守に関するマニュアルを配布し、その理解を深めるための試みもなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会への加入、ボランティアの受け入れ、行事への参加等を通じて、地域との交流を図っている。週に1度、職員の付添いでふれあいサロンを訪れ、地域の方々とのつきあいを持たれる入居者もいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の実施、外部評価の受審にあたり、管理者より説明が職員に対してなされ、共通の認識はもっている。自己評価の実施は、管理者と計画作成担当者が中心となり行われている。	○	ホームとして、この度が2回目の外部評価の受審であるが、自己評価の実施及び評価結果の検証を全体で行われることで、サービスの質向上に結び付けられることを期待したい。

事業所名:グループホームたのしい家平野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、町内会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、法人職員の参加の下、2か月に1回の割合で開催している。入居者の近況報告、法人及びホームの取り組みの紹介、その時期に応じた催しの相談等、話し合いがなされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に担当窓口を訪問し、入居者の状況やホーム内の課題等を報告することで、情報共有とサービスの質の向上が図られている。ケースワーカーとの関係構築も図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来所時に近況を口頭にて報告すると共に、毎月、管理者より体調面や介助の状況、イベントの開催案内、特記事項等が書面にて報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者家族会の開催までには至らないが、運営推進会議時に家族への参加を呼びかけ意見収集を行っている。また、意見箱設置やアンケート調査実施により、意見表出の機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の希望や適性、その他状況に応じて、法人内での異動等の可能性はあるが、入居者との馴染みの関係への配慮から最小限に抑えられている。職員の離職も少なく、安定的なサービスが提供されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画により、段階的に研修を受講する機会が設けられている。各ホームから健康管理委員やマナー委員が選出され、同グループ内での情報共有やホームでの伝達研修が実施されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、介護・医療知識、営業状況、職員のストレス問題等、幅広く問題提議がなされ、情報共有が図られている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、利用者及び家族の状況をしっかりと把握する為に、アセスメントに注力し、スムーズな利用開始に繋げることができるよう努めている。また、体験利用も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や洗濯たたみ、テーブル拭き等、入居者ができることについては、役割を持っていただきながら支援している。また、日常的な会話の中で、特に昔のことについては、教わることが多くある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で、入居者本人の希望や現状の気持ちを聞き取りながら、サービスに結び付けることができるように努めている。	○	今後も入居者の意向を把握するように努め、更にそれを職員全員で十分に共有することが望まれる。本人本位に検討し、その思いや希望を一つずつ受け止めて、サービスを提供されることを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の生活歴や身体状況、現状の生活における課題、及び家族の意向を把握するために、アセスメントが行われており、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリング、ケアカンファレンスを通じて、新たな課題等を設定し、介護計画の見直しが実践されている。入居者や家族の意思も確認されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月2回、ホームのかかりつけ医による往診によって入居者の健康管理に注力している。地域主催のサロンの利用等なじみの職員による柔軟な支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に本人や家族の要望を聞き取り、家族の付き添いを基本としながら、かかりつけ医の受診を受けられるような仕組みがある。受診結果に対する情報の共有も図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人として、重度化した場合や終末期のケアについての指針を定めている。入居前や状態の変化に応じて医師、家族、職員での話し合いの場を持つことで、情報の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への日常での援助や声掛けの際には人生の先輩であることを認識し、尊厳のある言葉づかいに注意している。法人として、接遇の向上に力を入れており、委員会を設け、研修も行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や近隣への散歩など、一人ひとりのその日の体調や様子に配慮し、本人の希望にそえるよう、ホームとしてできる限りの柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	提携の業者より食材を仕入れ、ホーム内のひとつのフロアで調理し、他ユニットへも配膳している。職員は入居者の状態の把握や援助の観点から交代制で食事を摂っている。	○	食事は入居者の楽しみのひとつであり、調理の音やにおいなど五感に働きかける。フロアごとに調理し、入居者に今以上に役割をもっていただけるような取り組みに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回の午後からの入浴を基本としながら、入居者の意向を尊重しながらスムーズで安全な入浴に注力している。夜間入浴に関しては、職員の配置上、入居者の安全面を考慮し、現在は行っていない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で入居者にお願ひできそうなことで協力を仰ぎ、役割を持ってもらえるよう配慮している。踊りのボランティア受け入れや地域のふれあいサロンの利用等、気晴らしへの配慮もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や入居者の気分や希望に応じて、季節を感じてもらい、心身の活性を図れるよう日常的に散歩や買い物に出かける機会を設けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い方などへの安全面の配慮からユニットへの出入り口は電子鍵で施錠されている。居室には鍵をかけず、不穏な状態の入居者に対しては、さりげない声かけや、外出支援などにより柔軟に対応している。		

事業所名:グループホームたのしい家平野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内において、定期的に入居者参加のもと避難訓練を行っている。調査直近にも地域主催の消防訓練にも参加しており、連携体制を更に整えたい考えである。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の食事摂取量、水分量を個人記録に記入することで状況把握と情報の共有を行っている。飲み物は数種類の中から本人が希望するものを提供する配慮もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はバリアフリーで入りやすくなっている。季節に合わせた飾りつけや入居者参加で作った小物などが飾られている。共用部には畳部屋があり、希望者はそちらで過ごすことができ、居心地の良い共用空間づくりへの意識がうかがえる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に必要なものや家族の写真、馴染みの家具など、持ち込んでもらい、生活感や季節感のあるものを活用しながら、心地よく過ごしてもらえる環境づくりに配慮している。		

※ は、重点項目。